

レジメン番号	0697	レジメン名	DBd 療法 1-3 サイクル(ダラキューロ)
登録診療科	血液内科	使用薬剤	ダラキューロ、ベルケイド、レナデックス
がん腫	多発性骨髄腫	インターバル日数	21 日

【投与量・投与スケジュール】

薬品名 投与量/体表面積	投与方法	患者 投与量	Day1 ( / )	Day2 ( / )	Day4 ( / )	Day5 ( / )	Day8 ( / )	Day9 ( / )	Day11 ( / )	Day12 ( / )	Day15 ( / )	…Day21	Day1 ( / )
ダラキューロ 配合皮下注 1V/body	皮下注	V	↓				↓				↓	3週間を 1コース	↓
ベルケイド 1.3mg/m <sup>2</sup>	皮下注	mg	↓		↓		↓		↓				↓
レナデックス D1-D14に 80mg/週 (原則 20mg/回) (D15 医師判断で実施)	点滴 又は 経口	mg	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	(↓)		

【当日の投与方法】

薬品名	規格	希釈液/量	投与速度/方法
① ダラキューロ 配合皮下注			皮下注(※)
② ベルケイド	3mg	生食 1.2mL	皮下注

(Day1,8)

(皮下注)

(皮下注)

①開始 1～3 時間前に  
アセトアミノフェン 500mg 2T  
投与順番≫ d-クロルフェニラミン 6mg 1T ① → ② → 終了  
レナデックス 4mg 5T  
を内服

(Day4, 11)

投与間隔≫ (皮下注)

投与順番≫ ② → 終了

(Day15)

投与間隔≫ (皮下注)

①開始 1～3 時間前に  
アセトアミノフェン 500mg 2T  
投与順番≫ d-クロルフェニラミン 6mg 1T ① → 終了  
(レナデックス 4mg 5T)  
を内服

【備考】

①※臍から左又は右に約 7.5cm の腹部皮下に、本剤 15mL を約 3～5 分かけて投与する。

②ベルケイドの用量は 1.3mg/m<sup>2</sup>より開始し、毒性に応じて、1.0mg/m<sup>2</sup>、0.7mg/m<sup>2</sup>、投与中止に調節

・75 歳を超える、過少体重 (BMI : 18.5kg/m<sup>2</sup>未満)、コントロール不良の糖尿病又はステロイド療法に

対する忍容性がない、もしくは有害事象を発現した患者には、レナデックスを 20mg/週で投与可